伊 豆 大 島

○火山活動度レベル（平成 18 年１月）

１（静穏な火山活動）

○概況（平成 18 年１月）

長期的な山体の膨張傾向が継続しています。５～９日にかけて地震が一時的にやや増加しましたが、火山活動に特段の変化はなく、その後は静穏に経過しました。

○噴煙の状況

大島北西外輪に設置した遠望カメラでは、三原山火口からの噴煙は観測されませんでした。

図１　三原山の状況
（１月 30 日　元町上空から撮影）

○地震及び微動の発生状況

５～９日に、島の西方海域の深さ約４～６㎞を震源とする地震がややまとまって発生しました。最大地震は８日 17 時 19 分に発生したM（マグニチュード）1.8（暫定）で、島内の震度計で震度１以上は観測されませんでした。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っています。火山性微動は観測されませんでした。

この周辺海域では、これまでにもしばしば地震の一時的な多発がみられており、最近では 2005 年 12 月 29～30 日にも発生しています。

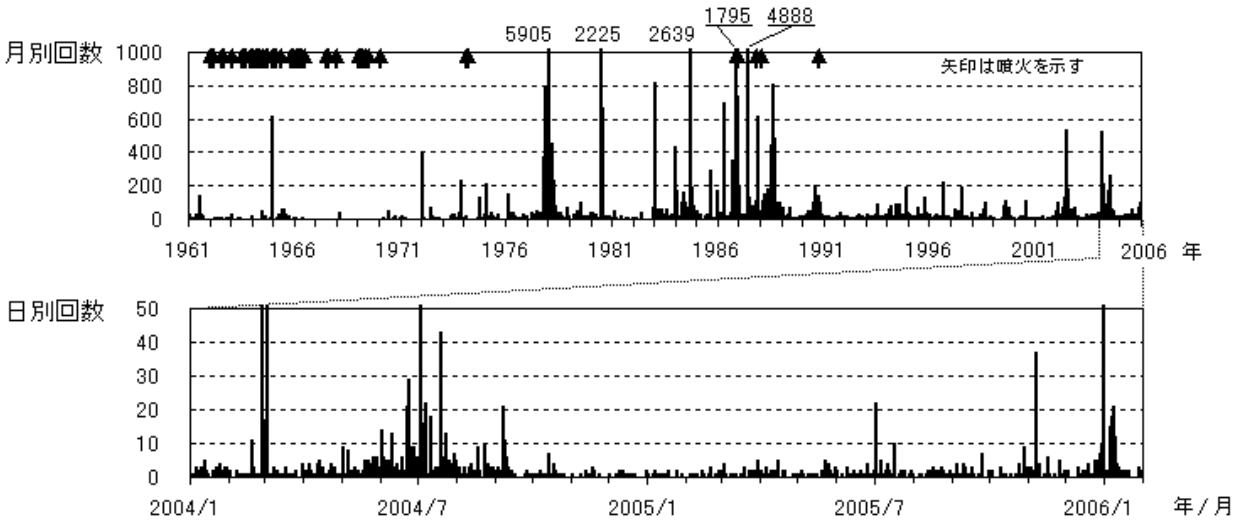

図２　伊豆大島　地震回数　　**上段：月別（1961 年１月～2006 年１月）**
下段：日別（2003 年 11 月１日～2006 年１月 31 日）

注）地震回数には、「1978 年伊豆大島近海地震」の余震活動など、伊豆大島周辺の構造性地震も含まれています。

※この資料は気象庁のほか、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

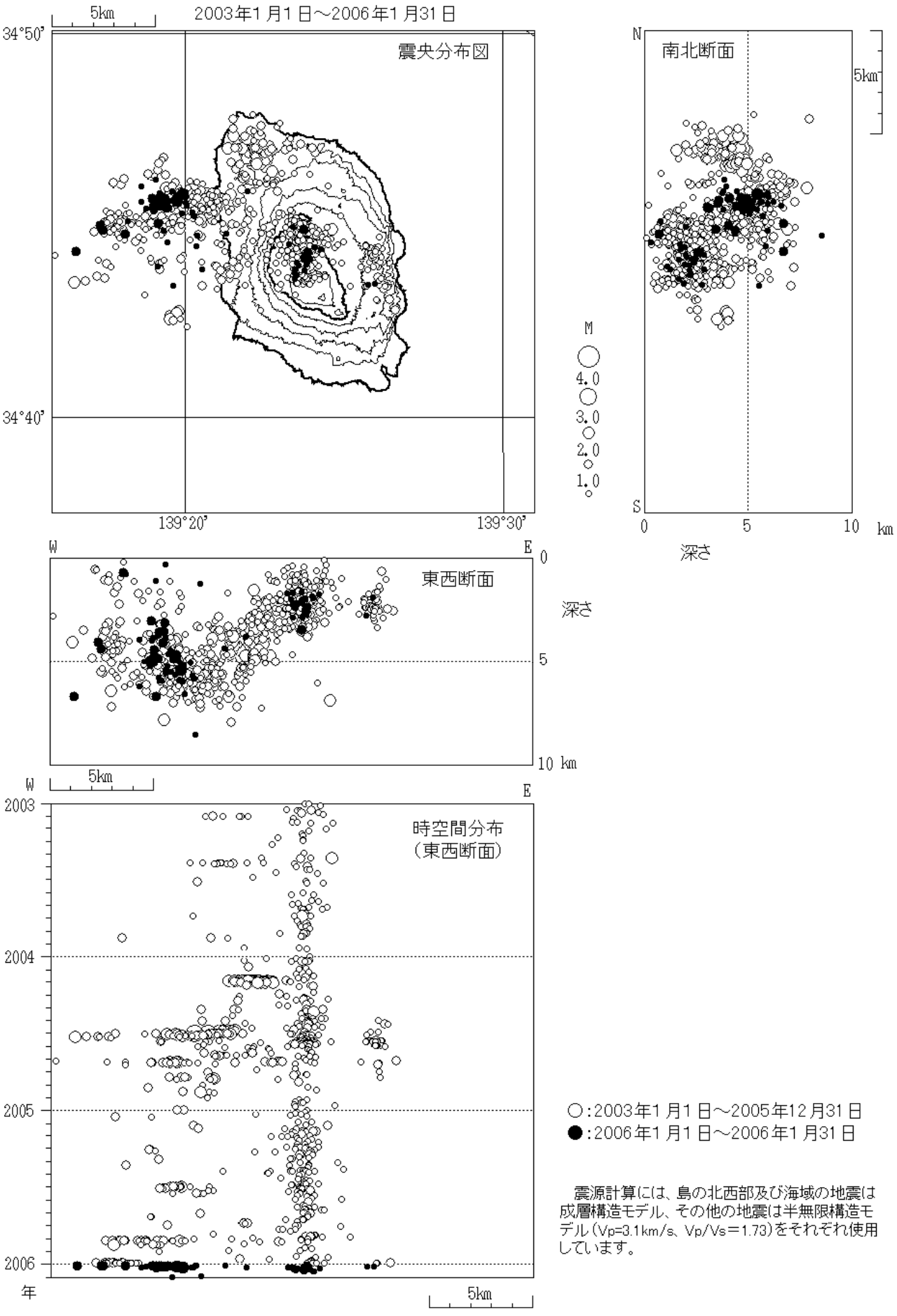

図３※ 伊豆大島　震源分布(2003 年 1 月 1 日～2006 年 1 月 31 日)

○地殻変動の状況

ＧＰＳ連続観測および光波距離計による観測では、山頂カルデラを挟む２つの基線（図４①、②）で現在も山体の膨張を示すわずかな伸びの傾向が続いています。一方、島の北西側の基線（図４③、図５）では、2000 年頃から長期的な伸びの傾向が停滞しています。

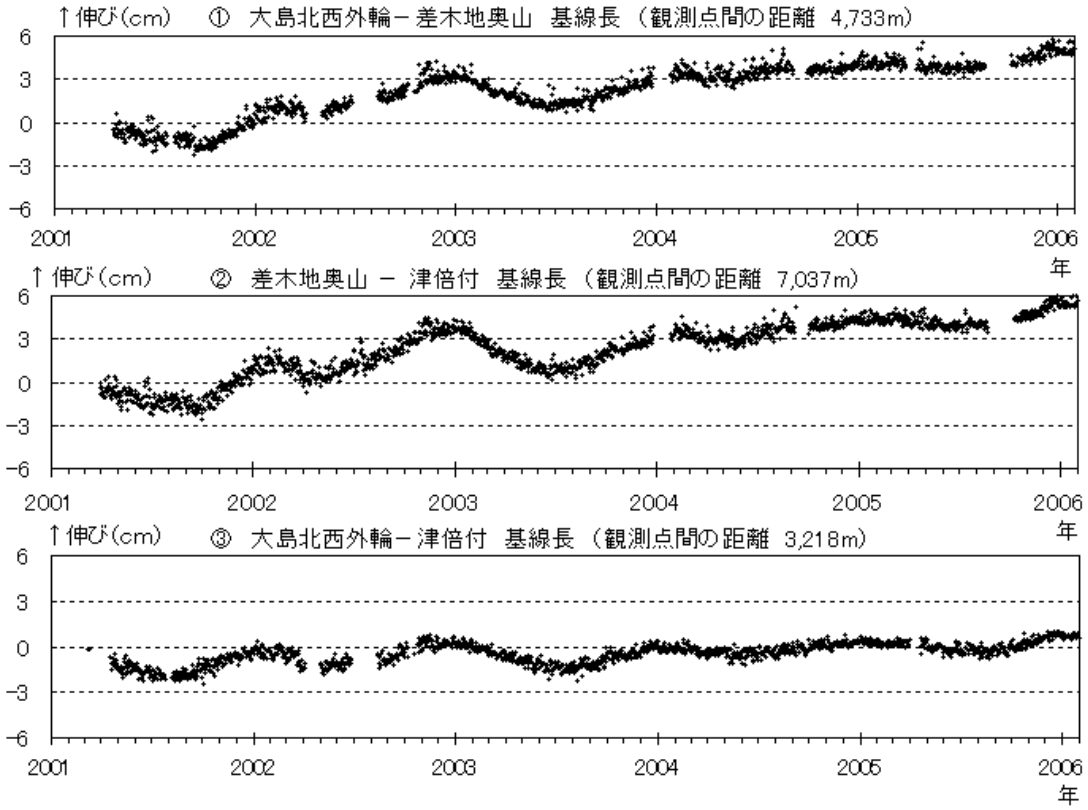

図４　伊豆大島　ＧＰＳ連続観測による基線長変化（2001 年３月７日～2006 年１月 31 日）
基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

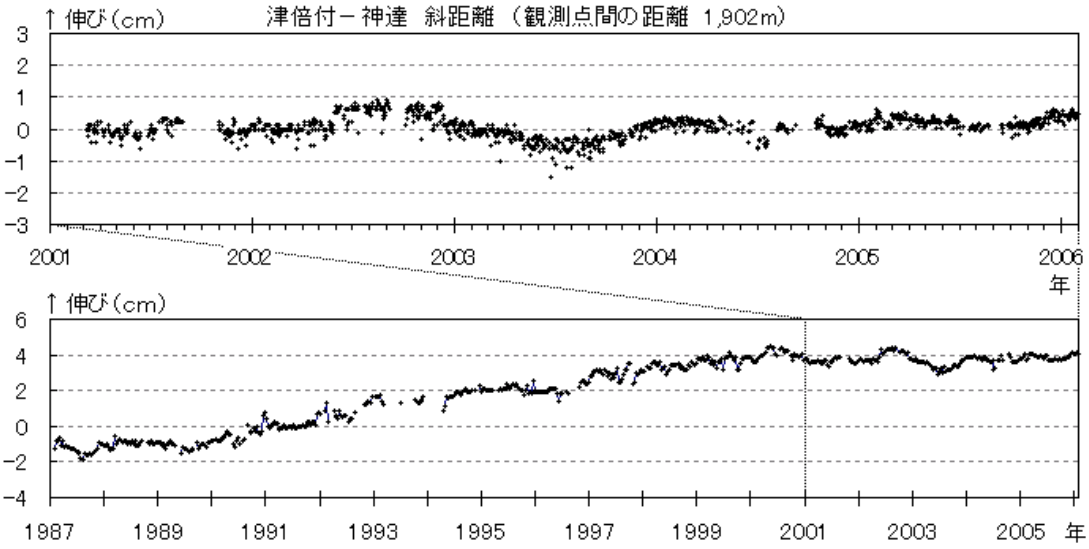

図５　伊豆大島　光波距離計による津倍付―神達間の斜距離変化
上段：日平均値（2001 年３月１日～2006 年１月 31 日）
下段：旬平均値（1987 年１月～2006 年１月）

○観測点情報

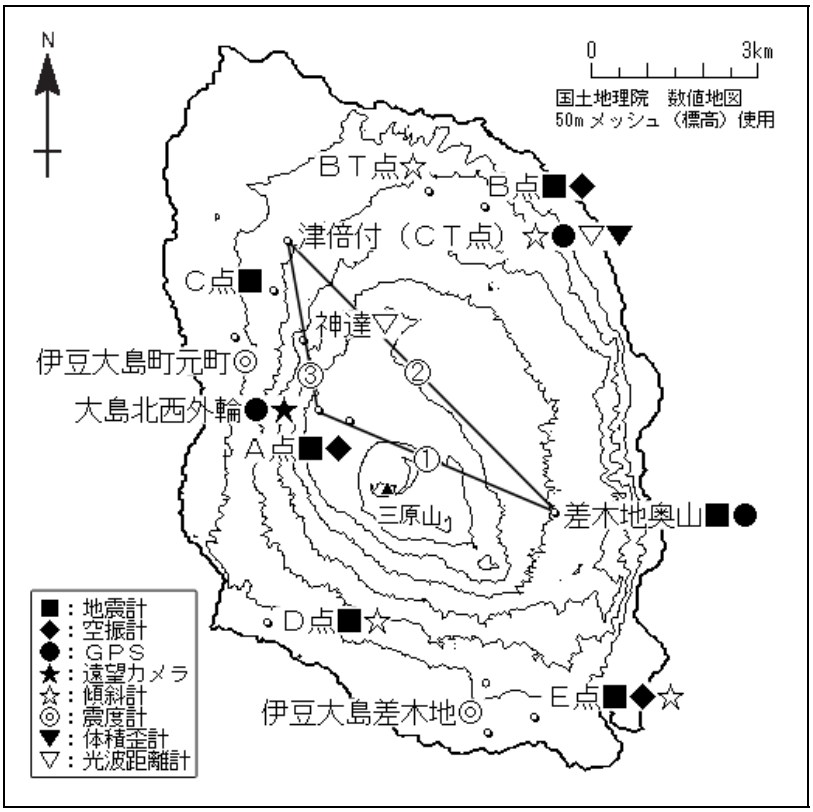

図６　伊豆大島　気象庁の観測点配置図